献 呈 の 辞

寒さの厳しい冬でしたが，ようやく桜の便りも届くころとなりました。専修大学では新しい学士課程の教育が完成年度を迎え，新学部や文学部の新学科の設置に向けて，着々と準備が進められています。1966年に設立された文学部は昨年度の50周年を節目として，心新たに将来への一歩を踏み出しました。そのようななか，今年も３月になり，退職される先生をお送りする季節がやってきました。

専修大学文学部では，2018年３月末日をもって，英語英米文学科の並木信明教授が定年により退職されます。

並木信明教授は，北海道大学理類に入学し，工学部機械工学科で学ばれたのちに，立教大学文学部英米文学科の３年次に編入して英米文学を修められました。大学卒業後は立教大学大学院文学研究科英米文学専攻に進学し，アメリカ文学の研究を深められました。その後，秋田大学，山梨大学で教鞭をとられたのち，1998年に本学文学部に教授として着任し，20年の長きにわたって在職されました。

並木先生の専門分野は，アメリカ文学で，特に20世紀アメリカの作家ウィリアム・フォークナーについて多くの研究論文を発表されています。また，中世以来のキリスト教文化についても関心を寄せられ，中世に大聖堂を中心に隆盛したゴシック文化についての論考もあります。授業では長年「キリスト教文化論」という科目を担当され，ご自身が撮影された国内外の教会堂の写真を学生たちに見せて説明されま

した。カメラやレンズへのこだわりはプロ並みで，学生たちは美しい写真に魅了され，キリスト教への興味も深まったことと思います。

文理両道の先生が機械に強いのはカメラに限りません。本学に来られた20年前，英語英米文学科には年配の先生が多く，コンピューターの扱いに不慣れであったため，学科の先生たちに向けて端末室でコンピューターの操作やホームページ作成のための講習会を開いてくださったそうです。

学内では，英米文学科学科長（2000年度），英語英米文学科学科長（2001年度）のほか，体育部・国際交流センター・学生部などの委員を務められました。体育部委員会の委員であった2007年からボクシング部の監督，2016年からはボクシング部の部長という大役を担ってこられました。ボクシングの経験はなかったそうですが，ご自身でトレーニング方法や栄養について学び，合宿にも必ず参加して熱心に指導されたと伺っております。

得意な分野についての経験や知識によって周りの人々に尽くしてこられた先生からは，やはりキリスト教的な献身のようなものを感じます。そして，先生はそれを大いに楽しんでおられたことでしょう。

文学部の発展に大きく寄与してこられた先生に対し，惜別の思いは尽きませんが，日ごろから健康に留意されているという先生の今後のますますのご健勝を願いつつ，深い感謝の気持ちを込めて献呈の辞とさせていただきます。

2018年 3 月

専修大学文学部長　廣　瀬　玲　子